

大谷遺跡 第6地点

遺跡名	大谷遺跡
よみがな	おおたにいせき
調査地点	第6地点
主な時代	弥生時代後期
調査地	富士見市山室2丁目1209-1、1230-1
調査面積	498 m ²
調査期間	平成28年9月1日～9日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 弥生時代後期末の竪穴住居跡1軒</p> <p>【出土した主な遺物】 弥生時代後期末の台付甕、甕、壺</p> <p>【概要】 大谷遺跡は、山室の舌状の台地上に立地する縄文時代早期、弥生時代後期、平安時代にわたって営まれた遺跡です。第6地点は調査の結果、弥生時代後期末の住居跡1軒が発見されました。住居跡の規模は、掘り込みは比較的浅いものの、約9m×10mと大規模で、入口部分の脇に設けられた貯蔵穴からは土器等の遺物が多数出土しています。</p>



住居跡調査風景



完掘した弥生時代住居跡



貯蔵穴から出土した土器



住居跡から出土した土器